

2025年11月6日
南海電気鉄道株式会社

**多言語音声案内ツールを活用した
「異常時案内放送システム」の実証実験を実施します
～11月10日(月)から～**

南海電気鉄道株式会社(社長:岡嶋 信行)では、11月10日(月)から、多言語(日・英・中・韓)による異常時案内放送システム(以下「本システム」)を活用した異常時案内放送の実証実験を実施します。

これは、国外からお越しになるお客さまへ向けた、列車の運行情報などの案内強化を目的とした実証実験です。本システムを、駅の放送を一元管理できる駅総合案内センターに導入し、事故等による列車の遅れが発生した場合など(以下「異常時」)に活用します。これにより、駅において多言語での情報提供が必要なケースに対し、そのニーズに応えられるかなどを検証します。



本システムは、異常時に必要な案内放送を多言語で提供できるシステムです。株式会社アルカディアが開発した「タゲンアン」をベースに、当社の駅名や路線名などの固有名詞(イントネーション含む)のほか、当社の各種案内放送を事前に登録することで、迅速に案内放送が可能になります。さらに、日本語で入力すると多言語に翻訳された放送文を作成する機能も備えており、この両機能を活用し、お客さまへ多言語での異常時案内放送が可能な環境を整備します。

なお本実証実験の結果を受け、駅総合案内センター以外の各駅や列車においても、同システムを活用した異常時における多言語放送を提供できる環境整備の検討を進めていく予定です。

詳細については別紙のとおりです。



「タゲンアン」ロゴ

以上

多言語音声案内ツールを活用した放送システムの実証実験について

1. 実施期間

2025年11月10日(月)～2026年3月31日(火) ※実施期間は変更となる可能性があります。

2. 設置場所

駅総合案内センターおよび本社

3. 対応言語

日本語・英語・中国語・韓国語

4. 放送を予定している項目

異常時における案内放送、当社沿線のPR案内情報など

5. 導入背景(現状の課題)

- ・異常時における案内放送は日本語が大半であり、国外のお客さまへの案内が十分にできていない
- ・多言語での放送ツールが少なく、WEBの翻訳サイトなどを活用しているが、ツールが定まっておらず、放送音声の声色が駅によって異なる状況がある
- ・一般的な翻訳サイトでは、駅名などを誤訳されることがあり、係員が誤訳を判別することが困難

6. 特徴

- ・日本語を入力すると、英・中・韓の3か国語を自動翻訳し、必要な放送文および音源を作成できる
- ・放送する言語やスピード、イントネーションなどは都度変更ができる
- ・当社の固有名詞(駅名・路線名)などはあらかじめ登録できる
- ・当社が独自に策定している、異常時における各種案内放送をあらかじめ登録できる

7. 製造元

株式会社アルカディア(社長:天白 成一)

以 上